

No.485
2024年
6月4日
(火)

つ く し ん ぼ

6月号
(水無月)
文責:瀧口



** 6月になりました**

春に運動会開催の学校では、大きな行事が終わり、いつもの学校生活がもどってきました。思誠小学校もその1つです。全校練習の終わりに2年生の男の子が、「先生、ぼく、今年はちゃんと走るよ!」と話しかけてきました。昨年、リレーで途中から走れなくなった子でした。最下位を走っていて追いつけない、追い越せないという思いが足を重くしてしまったようでした。この1年、ずっと後悔していたのでしょうか。覚えている人がいないかもしれないのに、こんな風にことばにできる強さをどうやって身につけたんでしょう。「楽しみにしてるよ!」と答えると笑顔で頷いた彼を、放送室から目一杯応援した運動会でした。失敗でくじけない、意欲を失わないなどもコミュニケーション能力とともに数値で測れない力(非認知能力)です。こういう力も「ことばの教室」で少しでも伸ばせるように安心の場を作りたいと思います。

** ことばを増やす関わり ** まなびルームポラリス 澳塩 渚**

☆人見知りや場所見知りが激しい子

- ・なぜその人や場所に「不安」を感じるのか分析してみる。
- ・「ここは安心できる場所」という感覚を作り、少しずつ例外を混ぜる。
- ・音や光などに敏感なことが不安につながっている可能性もある

〈例えば…〉

- ①子どもを迎える人を固定する
- ②場所に対する安定と安心を用意する
- ③徐々にいろいろな人が迎えるようにする



☆「ことば」に興味をなさそうな子

- ・じっとしていることが苦手、ひとつの所に注意を向け続けることが苦手なのかもしれない。

〈例えば…〉

- *短いパネルシアターなど、動きのあるものから見ることに慣れさせていく。
- *子どもの方から関わりたくなる絵本や紙芝居などを選ぶ。「ふしぎなまど」(やべみつりのり)



☆コミュニケーションの道具としてことばを使えない子

- ・大人にくらべ物事を見通して考えることが難しい。「このままずっとそれで遊べないかもしれない」と大きく気持ちが揺れ動く。
- ・好きなものや遊びの幅が狭い子が不安定になりやすい。

〈例えば…〉

- *その子が好きな遊びを観察し、そこに近い遊びから、遊びの幅を広げていくきっかけをつかむ。



** 読売新聞「こどもの詩」から**

読売新聞の「こどもの詩」には、笑わせてもらったりハッとさせられたりします。その中に「ことば」の気づきを詩にしたものがあつたので、紹介します。「フー」と「ハー」の息は、まさに構音指導のようです。子どもの感性ってすばらしいですね。

「大発見」

フーの息は
口先からだから
冷たいんだね

ハーの息は
心からくるから
あつたかいんだね




「れ」

ママ
ここに
カンガルーがいるよ



「何か言うとき」

お母さん
かんじとか
かたかなは
書けるけど
何かを言うときは
ぜんぶ
ひらがななんだね

アイウ
あいう 漢字

** おしらせ**

今年度の『こどものことばを育てる親の会』の年会費は1,000円です。7月19日(金)までに「ことばの教室」へお届けください。また、賛助会員の募集(教職員向け)も行っておりますので、趣旨をご理解いただき、一人でも多くの方のご協力をいただけますと幸いです。令和5年度の賛助会費は、総額66,000円でした。親の会事業の補助に使わせていただきました。ありがとうございました。

